



かんきつの カイガラムシ類 防除に 新・殺虫剤

モベント[®]X フロアブル

カイガラムシ類とミカンサビダニ、
チャノホコリダニの同時防除ができる!

無人航空機適用拡大!!



アカマルカイガラムシ
被害



ナシマルカイガラムシ
被害



ヤノネカイガラムシ被害



ミカンサビダニ被害



チャノホコリダニ被害



チャノキイロアザミウマ
被害



ミカンハダニ
被害



詳しい
製品情報は
こちらから



モベント®フロアブルの特長

- ヤノネカイガラムシやアカマルカイガラムシなどのカイガラムシ類、ミカンサビダニをはじめとした幅広い吸汁性害虫に効果があります。
- ヤノネカイガラムシなどのマルカイガラムシ類の第一世代幼虫の発生初期に当たる5月下旬～6月上旬に散布することで、カイガラムシ類、ミカンサビダニおよびチャノホコリダニが同時防除できます。
- 残効性に優れた薬剤です。

適用害虫および使用方法 (かんきつのみ抜粋)

2021年3月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数*		使用方法
					本剤	スピロテトラマト	
かんきつ	アブラムシ類 アザミウマ類 カイガラムシ類 ミカンサビダニ チャノホコリダニ ミカンハダニ	2,000倍	200～700ℓ/10a	収穫7日前まで	3回	3回	散布
	アブラムシ類 アザミウマ類 カイガラムシ類 ミカンサビダニ チャノホコリダニ	32倍	4～6ℓ/10a				無人航空機 による散布
		40倍	6～8ℓ/10a				
		50倍	8～10ℓ/10a				
		80倍	10～15ℓ/10a				
		100倍	15～20ℓ/10a				
		160倍	20～30ℓ/10a				
		250倍	30～40ℓ/10a				
		320倍	40～50ℓ/10a				

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

その他の適用作物、適用害虫等は製品ラベルをご確認ください。

注意事項 (抜粋)

- 使用前によく振ってから使用して下さい。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - 1) 散布は散布機種に準じて実施して下さい。
 - 2) 散布に当っては散布機種に適した散布装置を使用して下さい。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、周辺の桑葉にかからないようにして下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 最高分げつ期から出穂開花期の稲に本剤がかかると不稔などの薬害を生じる場合があるので、かからないように注意して下さい。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤飲などのないように注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けて下さい。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。

有効成分名および物理的・化学的性状等

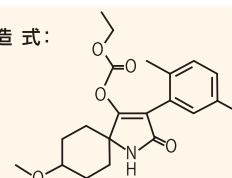
商品名: モベント®フロアブル
登録番号: 農林水産省登録 第23187号
種類名: スピロテトラマト水和剤

試験名: BCI-071フロアブル
有効成分: スピロテトラマト…22.4% [RACコード/殺虫剤分類23]
性状: 類白色水性和粘懸濁液

化学名: シス-4-(エトキシカルボニルオキシ)-8-メトキシ-3-(2,5-キシリル)-1-アザスピロ[4.5]デカ-3-エン-2-オン
分子量: 373.45g/mol
分子式: C₂₁H₂₇NO₅
密度: 1.23g/cm³(20℃)

融点: 142℃
蒸気圧: 1.5×10⁻⁸Pa(25℃)
溶解度: 水(20℃)pH7: 29.9mg/ℓ
オクタノール/水分分配係数(log Pow): 2.51 (pH4および7、40℃)

構造式:



安全性(製剤)

■人畜毒性：普通物 (毒劇物に該当しないものを指していう通称)

試験項目	供試動物	毒性
急性経口	ラット♀	LD ₅₀ >2,000mg/kg
急性経皮	ラット♂♀	LD ₅₀ >4,000mg/kg
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ	弱い刺激性あり
皮膚感受性	モルモット	皮膚感受性あり

いずれも製剤による評価

- 人畜毒性が低く、水産動植物にも安全性が高い薬剤です。
- 皮膚感受性があります。かぶれやすい体質の方は、取扱いに十分注意して下さい。

■水産動植物等に及ぼす影響

動物種	毒性
コイ	LC ₅₀ 24.8mg/l (96時間)
オオミジンコ	EC ₅₀ 144.41mg/l (48時間)
藻類	ErC ₅₀ 87.7mg/l (0~72時間)

ミツバチ、蚕に対する影響

■ミツバチ

試験項目	毒性
経口投与	LD ₅₀ >107.3μg ai/bee(原体, 48時間)
局所処理	LD ₅₀ >100.0μg ai/bee(原体, 48時間)

- モベント®フロアブルはミツバチに対して急性経皮・経口毒性を示しません。
- 蚕に対して長期間毒性を示すので、周辺の桑葉にかからないようにして下さい。

■蚕

試験項目	供試生物	毒性/安全日数
急性経口毒性	蚕 4齢起蚕	LC ₅₀ <200ppm
残毒	蚕 4齢起蚕	安全日数21日

有用昆虫および天敵への影響

■室内試験評価

供試天敵	影響評価	供試ステージ	試験方法
ククメリスカブリダニ	+++	幼虫	リーフディスク試験
	-	雌成虫	リーフディスク試験
チリカブリダニ	+++	幼虫	リーフディスク試験
	+	雌成虫	リーフディスク試験
ニセラーゴカブリダニ	++	卵・幼虫	リーフディスク試験
	-	雌成虫	リーフディスク試験
ミヤコカブリダニ	+++	幼虫	リーフディスク試験
	-	雌成虫	リーフディスク試験
ケナガカブリダニ	++	幼虫	リーフディスク試験
	-	雌成虫	リーフディスク試験
タイリクヒメハナカメムシ	-	幼虫	濾紙接触試験
	-	成虫	濾紙接触試験

平均補正死虫率による影響評価

- : 影響なし (死虫率30%未満) + : 影響少 (死虫率30~80%未満) ++ : 影響中 (死虫率80~99%未満) +++ : 影響大 (死虫率99%以上)

供試天敵	影響評価	供試ステージ	試験方法
ハモグリコマコバチ	-	成虫	濾紙接触試験
イサエアヒメコバチ	-	成虫	濾紙接触試験
オンシツツヤコバチ	-	寄生蛹	虫体浸漬試験
サバクツヤコバチ	-	寄生蛹	虫体浸漬試験
コレマンアブラバチ	-	雌成虫	リーフディスク試験
シヨクガタマバエ	-	成虫	濾紙接触試験
ヤマトクサカゲロウ	-	幼虫(1齢)	虫体浸漬試験
	-	幼虫(2齢)	経口試験
	-	成虫	産卵数/ふ化率
ナナホシテントウ	-	幼虫(4日齢)	接触試験
	-	成虫	産卵数/ふ化率

■圃場での影響期間

有用昆虫・天敵	散布での影響期間	試験作物
ミツバチ	1日	いちご・なす
スワルスキーカブリダニ	20~30日	なす・ピーマン
ミヤコカブリダニ	30~35日	いちご

表中の影響期間はあくまでも目安であり、気象条件、栽培条件により変化します。あくまでも目安としてご利用下さい。

●圃場条件下でのカブリダニ類への影響程度はIOBC分類で3(中程度)です。

●カンキツ園の以下の天敵類に対しては悪影響は小さいか、ほぼありません。(ハダニアザミウマ、ケシハネカクシ、ペダリアテントウ、キアシクロヒメテントウ、ヒメハナカメムシ類、コマユバチ等の寄生蜂類など)

作用機構

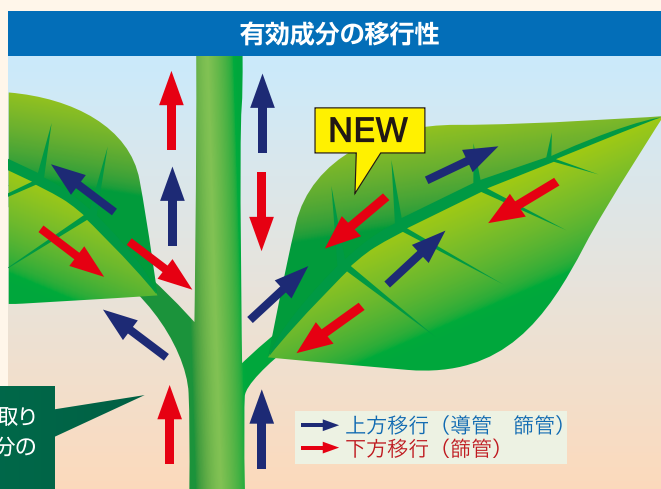
■モベント®フロアブルの有効成分スピロテトラマトは、害虫の成長過程で必要となる脂質を作れなくすることで正常な発育を阻害します。[RACコード/殺虫剤分類 23]

浸透移行性

■モベント®フロアブルは殺虫剤で唯一、導管と篩管の2つのルートを利用し、有効成分が植物体内を上下二方向に移動します。

■この上下二方向の移行性により、

- ・有効成分が植物体内にとどまり、害虫への防除効果が長く持続します。
- ・散布後に伸長した新梢にも成分が移行し、吸汁性害虫に優れた効果を発揮します。

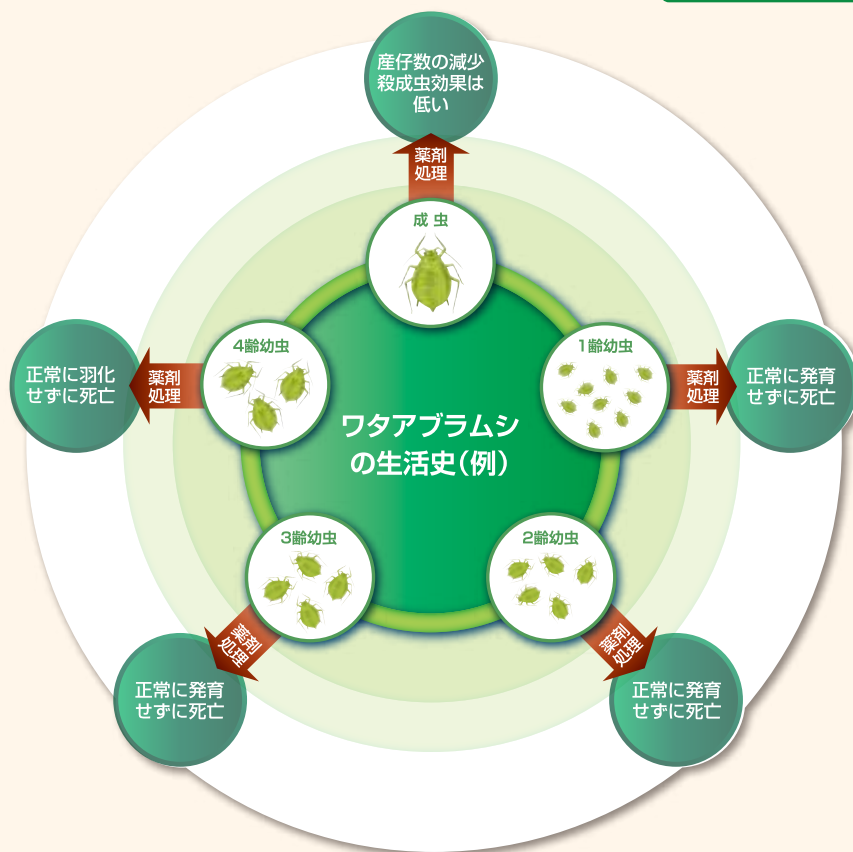


有効成分は散布後、速やかに植物体内に取り込まれ、導管と篩管のそれぞれの水分と養分の転流に乗って植物全体にゆきわたります。

効果の表れ方

- モベント®フロアブルは幼虫に対し優れた効果を発揮します。
- 成虫への殺虫効果は低いです。産仔数の減少や異常な幼虫の出現などの効果が見られます。

効果完成に多少時間がかかりますが、次世代密度を抑えることで長期間の残効が期待できます。



殺虫スペクトラム

■モベント®フロアブルは、幅広い吸汁性害虫と一部のチョウ目害虫に殺虫活性を示します。

分類	害虫名	効果
カイガラムシ類	ヤノネカイガラムシ	◎
	アカマルカイガラムシ	
	クワシロカイガラムシ	
	ウメシロカイガラムシ	
	ナシマルカイガラムシ	
	フジコナカイガラムシ	
	クワコナカイガラムシ	
	イセリアカイガラムシ	
	マツモトコナカイガラムシ	
	ツノロウムシ	
アブラムシ類	ユキヤナギアブラムシ	◎
	ワタアブラムシ	
	モモコフキアブラムシ	
	ムギワラギクオマルアブラムシ	
アザミウマ類	チャノキイロアザミウマ	○
	ミカンキイロアザミウマ	
	ヒラズハナアザミウマ	
	ネギアザミウマ	
	カキクダアザミウマ	

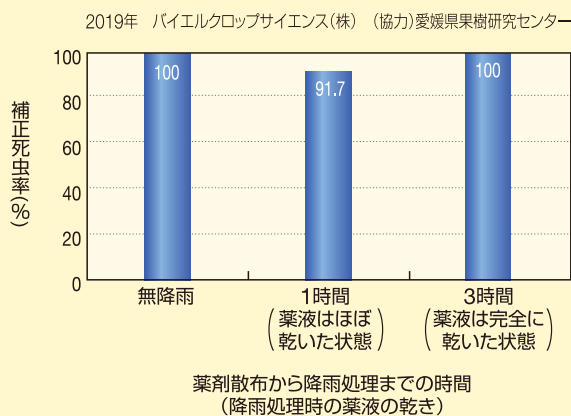
分類	害虫名	効果
ハダニ類	ミカンハダニ	○
	オウトウハダニ	
	リンゴハダニ	
	クワオオハダニ	
	カンザワハダニ	
	ナミハダニ	
サビダニ類	ミカンサビダニ	◎
	ニセナシサビダニ	
	ブドウサビダニ	
ホコリダニ類	リンゴサビダニ	○
	チャノホコリダニ	
一部のチョウ目害虫	コナガ	○
	アオムシ	

◎:効果高い ○:効果あり

耐雨性

■モベント®フロアブルは、優れた耐雨性を有します。

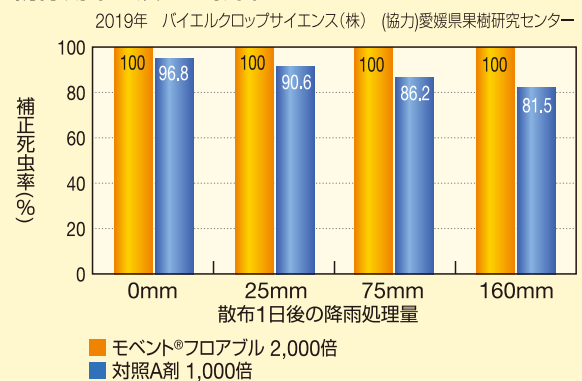
ヤノネカイガラムシに対する散布直後の降雨の影響



- 試験場所: 愛媛県果樹研究センター(屋根かけ網室)
- 品 種: サワーオレンジ実生苗(3年生)
- 発生状況: 雌2齢初期幼虫 多発生(人為接種)
- 区 制: 1区1本 2~3反復
- 処 理 日: 6/20(晴天)
- 処理方法: 予めヤノネカイガラムシを接種・定着させた供試苗にモベント®フロアブル2,000倍液をハンドスプレーで十分量散布。散布1,3時間後に人工降雨装置で29.4mm/hrの降雨処理を2時間実施。
- 調 査: 7/12に未成熟雌成虫、成虫に发育した個体数を調査。

モベント®フロアブルは薬液が完全に乾いた状態になれば降雨の影響は小さいと考えられました。

薬剤散布1日後の降雨量がヤノネカイガラムシの防除効果に及ぼす影響



- 試験場所: 愛媛県果樹研究センター(屋根かけ網室)
- 品 種: サワーオレンジ実生苗(3年生)
- 発生状況: ふ化幼虫 多発生(人為接種)
- 区 制: 1区1本 3反復
- 処 理 日: 5/23
- 処理方法: 各薬剤の希釈液を肩掛け噴霧器で十分量散布。散布1日後の5/24に人工降雨装置で29.1mm/hrの降雨処理を所定量に達するまで実施。降雨処理後の5/25~5/28にふ化幼虫を接種。
- 調 査: 7/3に雌雄2齢幼虫以上に发育した個体数を調査。

モベント®フロアブルの散布1日後に25~160mmの降雨処理をした場合でも、無降雨条件と同等の優れた殺虫効果が見られ、本剤は降雨の影響を受けにくいと考えられました。

マルカイガラムシ類に対する効果

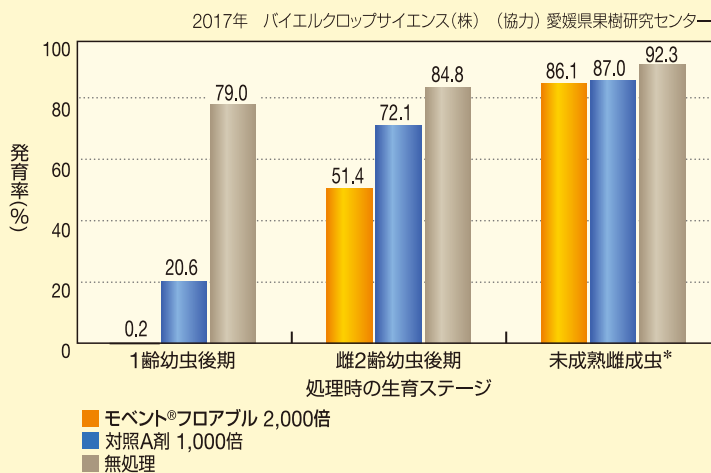
- 本剤はヤノネカイガラムシやアカマルカイガラムシ等のマルカイガラムシ類に対して優れた防除効果を発揮します。特に若齢幼虫に高い殺虫効果を示します。
- ヤノネカイガラムシにおいては、未成熟雌成虫に対し次世代の幼虫の産生を抑制するユニークな効果がみられます。
- ヤノネカイガラムシの若齢幼虫に対して30日以上残効性が期待できます。

モベント®フロアブルをマルカイガラムシ類の幼虫発生初期(5月下旬~6月上旬)に散布することで、その後の発生を長期間抑制することができます。

ヤノネカイガラムシの各生育ステージに対する効果

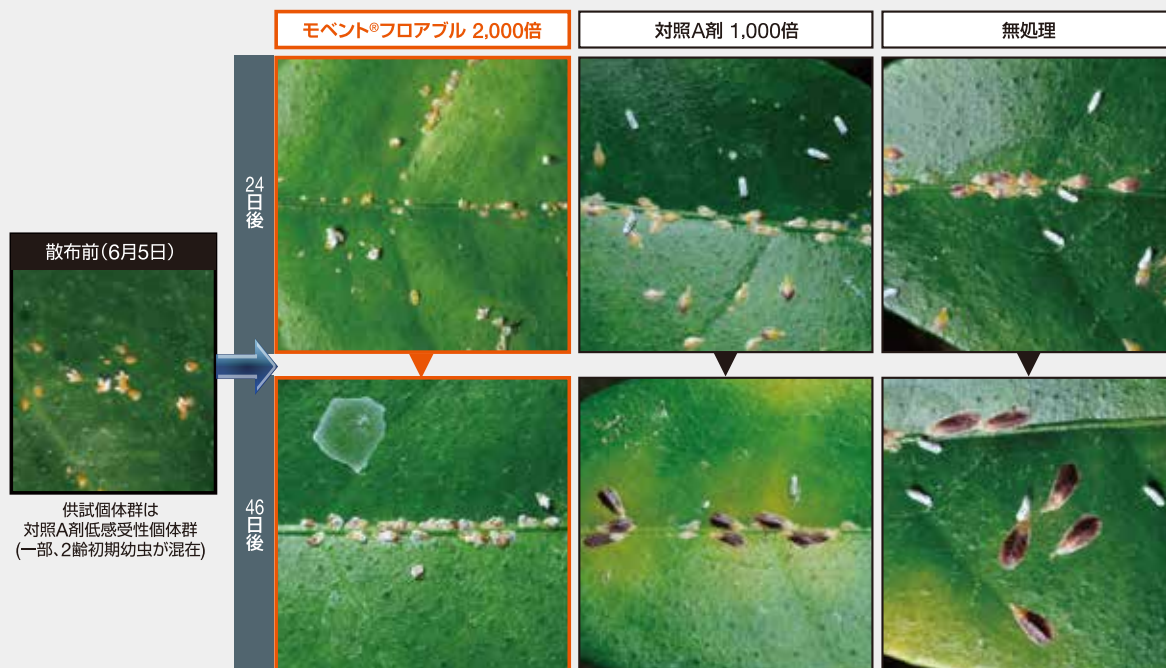
- 試験場所: 愛媛県果樹研究センター(室内ポット試験)
- 品 種: サワーオレンジ実生苗(1年生)
- 発生状況: 多発生(人為接種)
- 区 制: 1区1本 3反復
- 処理方法: 各薬剤の希釈液をハンドスプレーで十分量を散布。
- 調 査: 処理21~35日後に以下の生育ステージの個体数を調査。

生育ステージ	処理日	調査日	調査した生育ステージ
1齢幼虫後期	6/5	6/29(処理24日後)	未成熟雌成虫、雄介殻
雌2齢幼虫後期	6/20	7/25(処理35日後)	成虫
未成熟雌成虫	6/30	7/21(処理21日後)	成虫

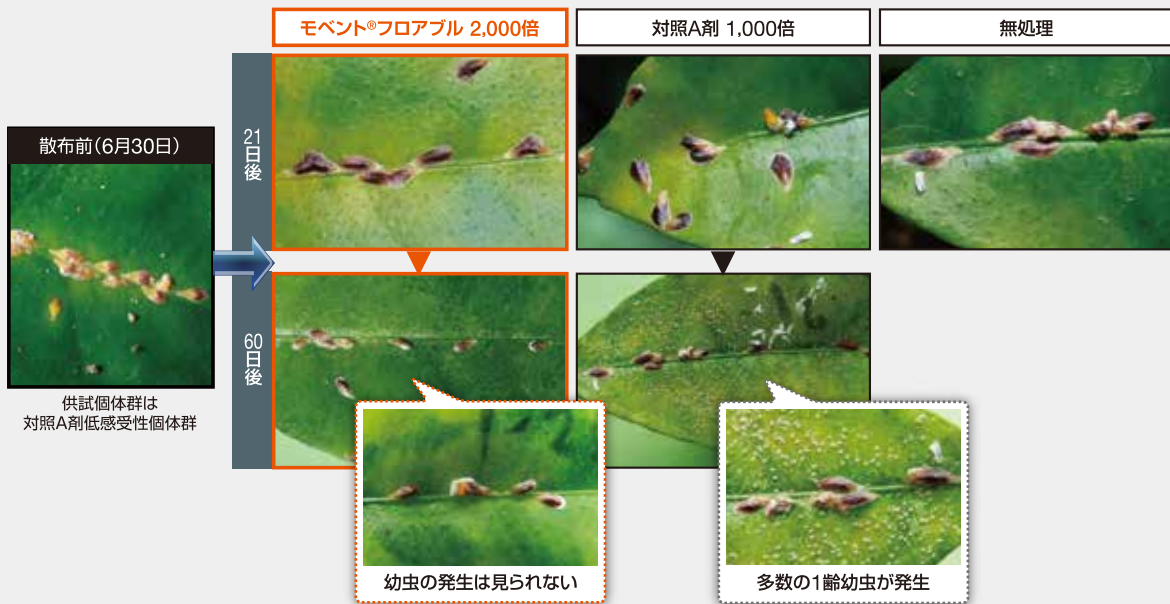


*: 本試験区においては、8/29(処理60日後)に次世代の幼虫発生状況についても調査した。

1齢幼虫後期に対する効果

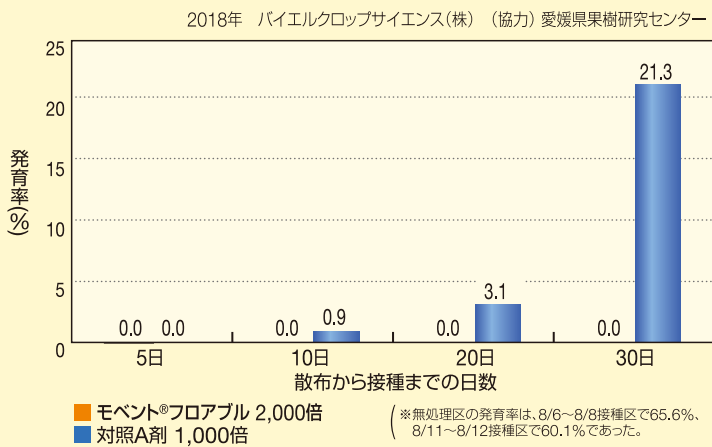


未成熟雌成虫に対する効果



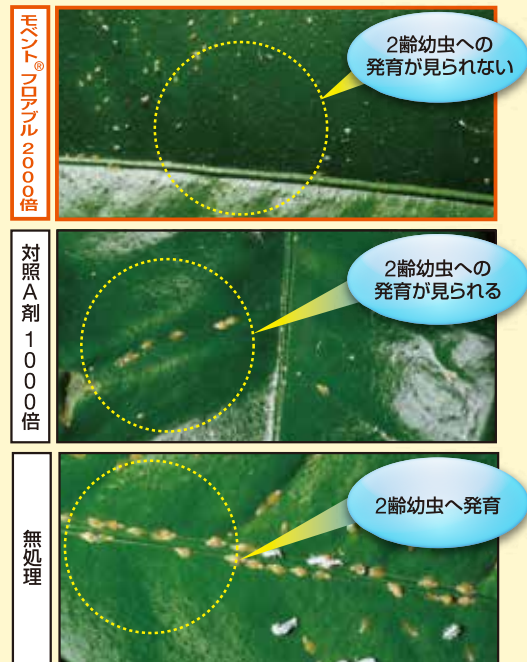
モベント®フロアブル散布は、ヤノネカイガラムシ1齢幼虫に対して優れた効果を示しました。一方、未成熟雌成虫に対しては効果が劣りましたが、次世代の幼虫の産生が抑制されました。

ヤノネカイガラムシに対する残効性



- 試験場所: 愛媛県果樹研究センター(屋根かけ網室)
- 品 種: サワーオレンジ実生苗2年生
- 発生状況: 第二世代ふ化幼虫 多発生(人為接種)
- 区 制: 1区1苗 2反復
- 処 理 日: 7/9(接種30日前)、7/19(同20日前)、7/29(同10日前)、8/7(同5日前)
- 処理方法: 各薬剤の希釈液をハンドスプレーで十分量を散布。
- 接種方法: 8/6~8/8(散布後10日~30日区)ならびに8/11~8/12(散布後5日区)に薬剤散布した供試葉の表面に、ヤノネカイガラムシ雌成虫の寄生する葉をクリップで固定し、自然に幼虫を定着させた。
- 調 査: 8/13に定着数を調査。9/1に2齢幼虫以上に発育した個体数を調査して、発育率を算出。

〈接種30日前処理区での2齢幼虫への発育状況 (9/2撮影)〉

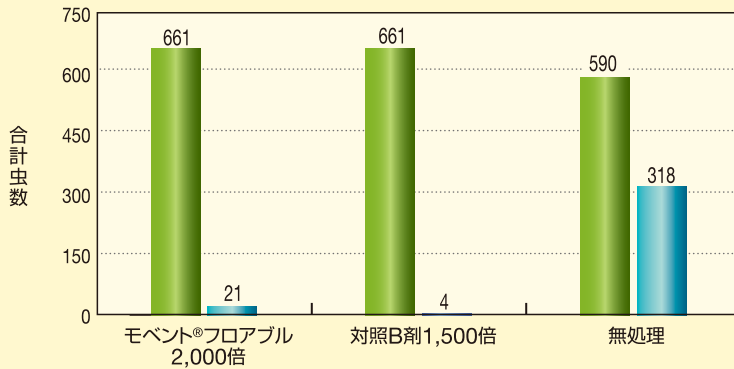


モベント®フロアブル散布により、ヤノネカイガラムシのふ化幼虫に対して散布後1ヶ月間にわたり高い発育阻害効果の持続が認められました。

ルビーロウムシに対する効果

2齢幼虫に対する効果試験

2018年 バイエルクロップサイエンス(株) 協力 愛媛県果樹研究センター



- 試験場所: 愛媛県果樹研究センター
- 品 種: 宮川早生20年生 露地栽培
- 発生状況: 多発生(人為接種)
- 区 制: 1区1樹(3枝) 3反復
- 処 理 日: 7/19 (2齢幼虫期)
- 処理方法: 各薬剤の希釈液を動力噴霧機で十分量を散布。
- 調 査: 9/21(処理64日後)に体長1.8mm以上の個体を成虫として調査。

■ 散布前(7/19)虫数
■ 散布64日後(9/21)虫数



散布時(7/19)(2齢幼虫)



モベント®フロアブル 2,000倍



無処理

モベント®フロアブル散布によるルビーロウムシ(2齢幼虫)防除の実用性が確認されました。

品種安全性確認事例

以下の品種に対してモベント®フロアブルは薬害が認められませんでした。

青島温州・アレンユーレカ・伊予柑・岩崎早生・上野早生・大津四号・興津早生・十万温州・湘南ゴールド・新甘夏・垂水1号・土佐文旦・豊福早生・南津海シードレス・日南1号・八朔・原口早生・ピラフランカ・宮内伊予柑・宮川早生・宮本早生・ラフレモン・ゆら早生・ユーレカレモン・早生温州

混用安全性確認事例(かんきつ)

	薬剤名	
殺虫剤	アドマイヤーフロアブル	キラップフロアブル
	エクシレルSE	ハーベストオイル
	エルサン乳剤	モスピランSL液剤
	オリオン水和剤40	

	薬剤名	
殺菌剤	アリエッティ水和剤	ナティーボフロアブル
	エムダイファー水和剤	ファンタジスタ顆粒水和剤
	ジマンダイセン水和剤	フロンサイド SC
	ストロビードライフロアブル	ベンコゼブ水和剤

※上記の薬剤はモベント®フロアブルとの混用によって薬害が認められなかった事例です。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージ、品種などにより異なる結果が得られることも予想されます。上記事例は、使用の安全性を保障するものではなく、あくまでも参考事例としてお取り扱い下さい。

■ボルドー液との混用・近接散布について

- ICボルドー412、ICボルドー66Dとの混用散布、および前後1週間以内の近接散布はさけて下さい。

かんきつ場面での上手な使い方

モベント®フロアブルの散布適期はカイガラムシ類とミカンサビダニの発生初期に当たる5月下旬～6月上旬です。

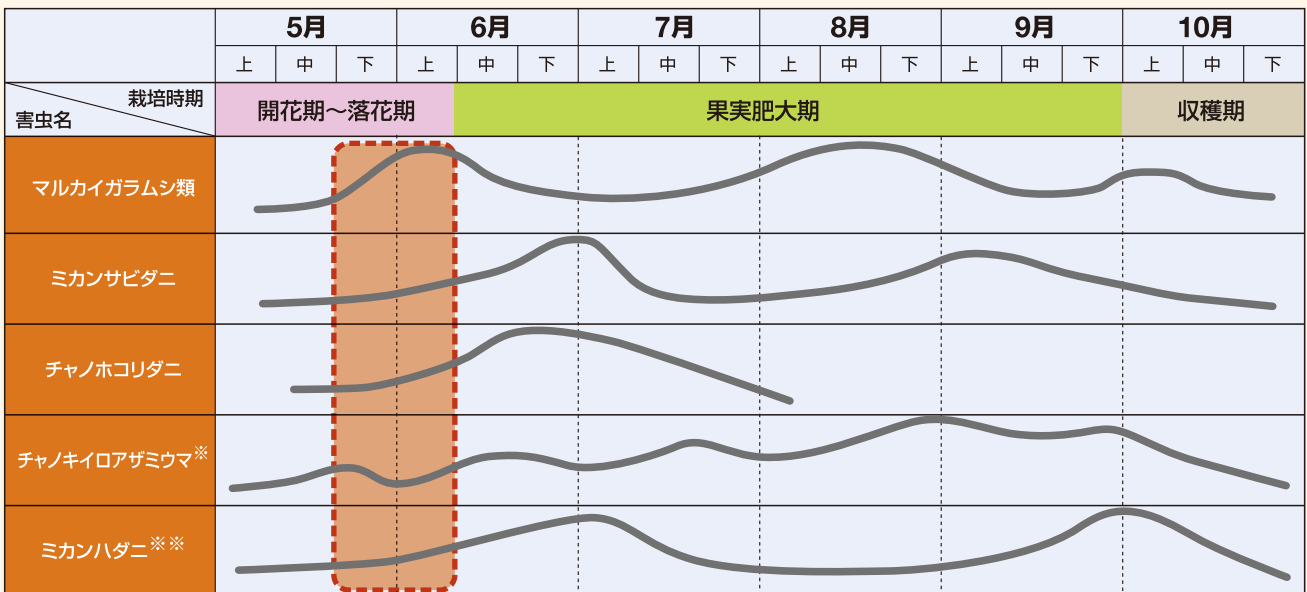
ヤノネカイガラムシやアカマルカイガラムシ等のマルカイガラムシ類およびミカンサビダニに対して高い効果が得られます。また、長期にわたって効果が持続します。

チャノホコリダニ、チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類も同時防除可能です。

ミカンハダニに対する密度抑制効果も期待できます。

害虫の発生消長と散布適期

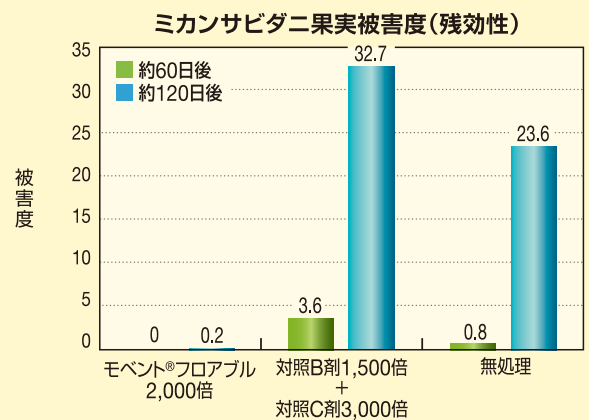
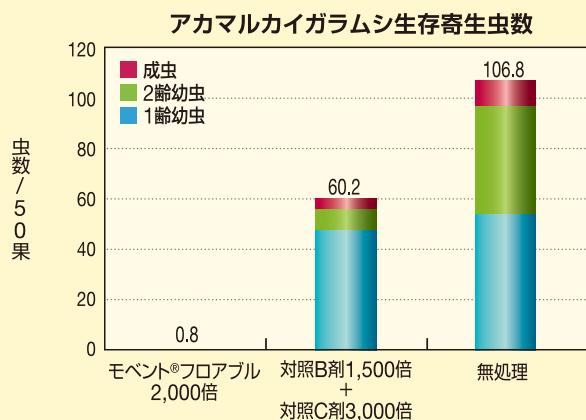
散布適期



※モベント®フロアブルは、チャノキイロアザミウマの成虫に対して効果が劣るため、密度が上がる前の散布がおすすめです。
 ※※モベント®フロアブルは、ミカンハダニの密度が高まる前の散布により、密度抑制効果が期待できます。

アカマルカイガラムシとミカンサビダニの同時防除効果

2018年 九州病害虫防除推進協議会成績 熊本県農業研究センター果樹研究所



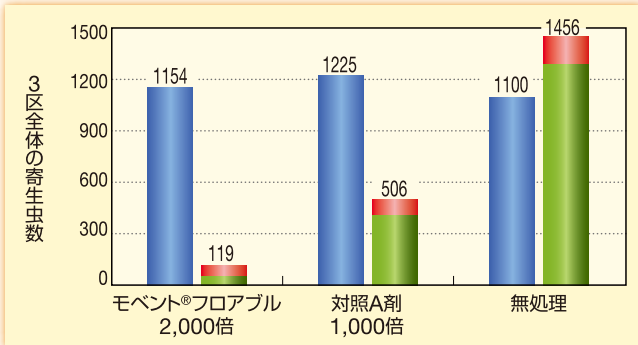
- 品 種：露地栽培「不知火」および「肥の豊」10年生
- 発生状況：アカマルカイガラムシ少発生、ミカンサビダニ少～並発生
- 区 制：1区1樹 5反復
- 処 理 日：モベント®フロアブル区：5/25(歩行幼虫発生始期)、対照区：6/7
- 調 査：アカマルカイガラムシ：散布約60日後(8/7)に1樹当たり50果について果実に寄生している虫数を齢期別に生死を確認し調査。
ミカンサビダニ：散布約60日後(8/7)、約120日後(10/2)に1樹当たり50果について、被害度別果数を調査し被害度を算出。

アカマルカイガラムシ第一世代幼虫発生始期の散布により、アカマルカイガラムシ、ミカンサビダニ双方に優れた防除効果が得られました。また、ミカンサビダニに対し優れた残効性が確認されました。

試験成績(抜粋)

ヤノネカイガラムシ

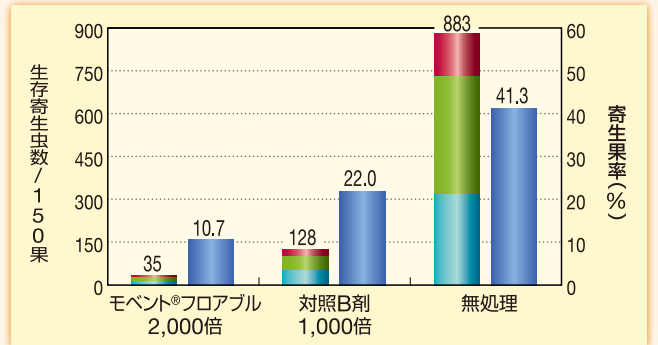
2015年 愛媛県果樹研究センター



- 品 種: 宮内伊予柑(20年生)
- 発生状況: 中発生(放虫)
- 区 制: 1区1樹 3反復
- 処 理 日: 8/26 1齢幼虫主体
- 処理方法: 動力噴霧器で1樹当たり約60散布。
- 調 査: 散布49日後(10/14)に各区3~5枝の寄生虫数を調査。

アカマルカイガラムシ

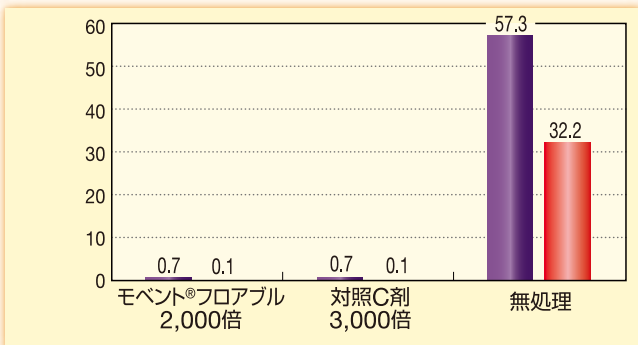
2018年 九州病害虫防除推進協議会成績 長崎県農林技術開発センター



- 品 種: 岩崎早生(12年生)
- 発生状況: 多発生
- 区 制: 1区1樹 3反復
- 処 理 日: 6/4 歩行幼虫発生期
- 処理方法: 動力噴霧器で1樹当たり十分量(約40/樹)散布。
- 調 査: 散布65日後に1樹当たり50果について果実に寄生している生存虫数を実体顕微鏡下で齢期別に調査。寄生果率も算出。

ミカンサビダニ

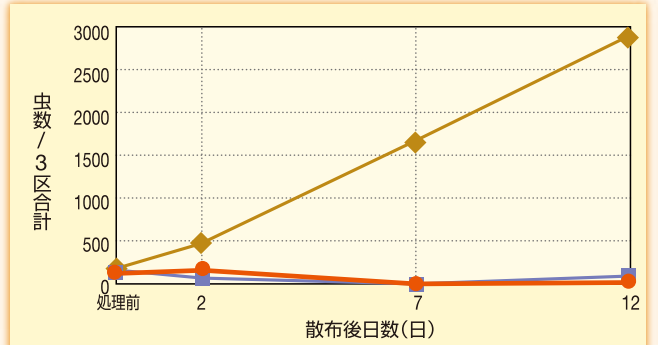
2016年 長崎県農林技術開発センター



- 品 種: 岩崎早生(10年生)
- 発生状況: 多発生
- 区 制: 1区1樹 3反復
- 処 理 日: 8/3
- 処理方法: 動力噴霧器で1樹当たり40散布。
- 調 査: 散布35日後(9/7)に各区50果について被害程度を調査し、被害果率および被害度を算出。

チャノホコリダニ

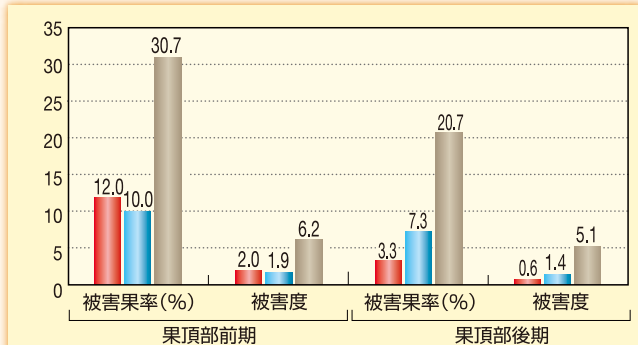
2015年 神奈川県農業技術センター 足柄地区事務所 根府川分室



- 品 種: 湘南ゴールド(3年生)(雨よけ網室)
- 発生状況: 多発生(放虫)
- 区 制: 1区1樹 3反復
- 処 理 日: 8/26
- 処理方法: 畜圧式噴霧器で1樹当たり0.50散布
- 調 査: 処理前、散布2日、7日、12日後に1樹当たり新葉6葉を採集し、実体顕微鏡下で葉の裏面に寄生する虫数を計数。

チャノキイロアザミウマ

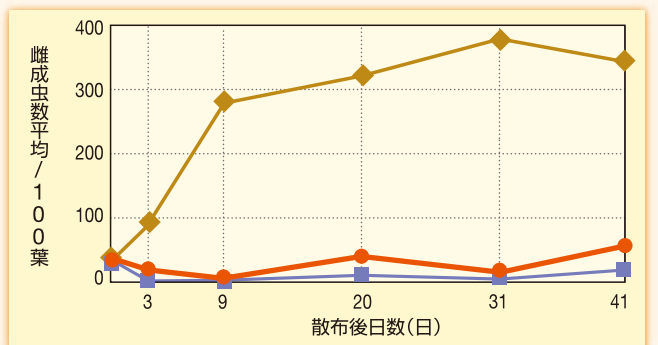
2017年 愛知県農業総合試験場



- 品 種: 宮川早生(16年生)
- 発生状況: 少→中発生
- 区 制: 1区6樹 内3樹を調査
- 処 理 日: 6/15、7/13、8/14、9/15の計4回
- 処理方法: 動力噴霧器で樹全体に十分量(80/樹)散布
- 調 査: 最終散布28日後(10/13)に、1樹当たり50果の果頂部の被害より被害度を算出。

ミカンハダニ

2015年 佐賀県果樹試験場



- 品 種: ゆら早生(5年生)
- 発生状況: 中発生
- 区 制: 1区1樹 3反復
- 処 理 日: 9/18
- 処理方法: 動力噴霧器で1樹当たり40散布。
- 調 査: 散布前、散布3日、9日、20日、31日、41日後に各区1樹当たり30葉について雌成虫数を調査。

新農薬実用化試験概評(抜粋)

かんきつ カイガラムシ類

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2014	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ) 〈虫数(A)〉	愛媛果	露地	中	2,000倍 6ℓ/樹	散布	1	6/10 〈処理46日後〉	対照A剤 1,000倍	B	A	A	—
2015	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ) 〈補正密度(A,L)〉	神奈川 根府川	露地	少	2,000倍 8ℓ/樹	散布	1	8/21 〈処理38日後〉	対照D剤 1,000倍	B	B	B	—
2015	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ) 〈生存率(♀A)〉	静岡果	露地 (ポット)	中 (放虫)	2,000倍 2ℓ/4樹	散布	1	6/16 (新葉硬化期) 〈処理41日後〉	対照B剤 1,500倍	B	A	A	—
2015	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ) 〈補正密度(♀A)〉	三重紀南	露地	中	2,000倍 10ℓ/樹	散布	1	8/12 〈処理30日後〉	対照B剤 1,500倍	B	A	A	—
2015	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ) 〈虫数(A,L)〉	愛媛果	露地	中 (放虫)	2,000倍 6ℓ/樹	散布	1	8/26 〈処理49日後〉	対照A剤 1,000倍	A	A	A	—
2016	ヤノネカイガラムシ 〈生存虫率(♀A)〉	静岡果	露地 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 2ℓ/4樹	散布	1	6/15 (春葉硬化期) 〈処理40日後〉	対照B剤 1,500倍	C	B	B	—
2016	ヤノネカイガラムシ 〈生存率(A,L)〉	愛媛果	露地	中 (放虫)	2,000倍 2ℓ/樹	散布	1	6/3 〈処理39日後〉	対照H剤 3,000倍	A	A	A	—

かんきつ ミカンサビダニ

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2015	サビダニ類 (ミカンサビダニ) 〈被害果率、被害度〉	愛媛果	露地	少	2,000倍 9ℓ/樹	散布	1	8/28 〈散布47~48日後〉	対照C剤 3,000倍	B	B	B	—
2015	サビダニ類 (ミカンサビダニ) 〈補正密度(A)〉	佐賀果	雨よけ (ポット)	中 (放虫)	2,000倍 1ℓ/樹	散布	1	9/29 〈散布3.9日後〉	対照C剤 3,000倍	B	A	A	—
2015	サビダニ類 (ミカンサビダニ) 〈被害果率〉	佐賀果	露地	極少	2,000倍 8ℓ/樹	散布	1	6/15 〈散布40日後〉	対照C剤 3,000倍	?	?	?	—
2015	サビダニ類 (ミカンサビダニ) 〈被害果率、被害度〉	長崎果	露地	中	2,000倍 4ℓ/樹	散布	1	8/3 〈散布35日後〉	対照I剤 1,000倍	B	A	A	—
2015	サビダニ類(ミカンサビダニ(リュウ キュウミカンサビダニが混発)) 〈被害果率、被害度〉	鹿児島果	露地	少 (放虫)	2,000倍 10ℓ/樹	散布	1	9/10 〈散布29日後〉	対照I剤 1,000倍	B	A	A	—
2016	サビダニ類 (ミカンサビダニ) 〈被害果率、被害度〉	長崎果	露地	多	2,000倍 4ℓ/樹	散布	1	8/3 〈散布35日後〉	対照C剤 3,000倍	B	A	A	—
2016	ミカンサビダニ 〈被害果率、被害度〉	佐賀果	露地	少	2,000倍 10ℓ/樹	散布	1	6/15 〈処理55日後〉	対照C剤 3,000倍	B	A	A	—

かんきつ チャノホコリダニ

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2015	チャノホコリダニ 〈補正密度(A,L)〉	神奈川 根府川	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	8/26 〈処理7.12日後〉	対照E剤 4,000倍	A	A	A	—
2015	チャノホコリダニ 〈寄生虫数(A,L)〉	愛媛果	施設 (ポット)	中	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	5/10 〈散布3.10日後〉	対照C剤 3,000倍	C	B	B	—
2016	チャノホコリダニ 〈補正密度(A,L)〉	神奈川 根府川	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	8/8 〈処理4.7.14日後〉	対照E剤 4,000倍	C	B	B	—
2016	チャノホコリダニ 〈密度指数〉	静岡果	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 1ℓ/2樹	散布	1	9/20 (新梢展開期) 〈処理8.15日後〉	対照J剤 2,000倍	B	A	A	—
2016	チャノホコリダニ 〈寄生虫数(A,L)〉	愛媛果	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	7/18 〈散布3.7日後〉	対照C剤 3,000倍	C	B	B	—
2017	チャノホコリダニ 〈補正密度(A,L)〉	神奈川 根府川	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	9/14 〈処理7.14日後〉	対照J剤 2,000倍	C	B	B	—
2017	チャノホコリダニ 〈虫数(A,L)〉	愛媛果	施設 (ポット)	多 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	7/24(処理3.7日後) 10/3(処理3.8.13日後)	対照C剤 3,000倍	C	C	C	—

新農薬実用化試験概評(抜粋)

かんきつ チャノキイロアザミウマ

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2015	アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ) 〈被害度,被害果率〉	神奈川 根府川	露地	少	2,000倍 10ℓ/樹	散布	3	6/2, 7/15, 8/19 〈1回目処理104日後〉	対照K剤 2,000倍	C	B	B	-
2015	アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ) 〈被害度〉	長崎果	露地	少	2,000倍 5ℓ/樹	散布	2	6/4, 7/3 〈最終散布32日後〉	対照L剤 3,000倍	B	A	A	-
2016	チャノキイロアザミウマ 〈被害度,被害果率〉	神奈川 根府川	露地	少	2,000倍 10ℓ/樹	散布	3	6/3, 7/14, 8/26 〈1回目処理109日後〉	対照K剤 2,000倍	C	B	B	-
2016	チャノキイロアザミウマ 〈被害度,被害果率〉	長崎果	露地	中	2,000倍 5ℓ/樹	散布	2	6/3, 6/23 〈最終散布32日後〉	対照L剤 3,000倍	C	A	A	-
2017	チャノキイロアザミウマ (果頂部前期及び 後期の被害度)	愛知 蒲郡	露地	少→中	2,000倍 8ℓ/樹	散布	4	6/15, 7/13, 8/14, 9/15 (果実肥大期) 〈最終処理28日後〉	対照F剤 4,000倍	B	B	B	-
2017	チャノキイロアザミウマ 〈被害度〉	三重 紀南	露地	少	2,000倍 4ℓ/樹	散布	4	5/23, 6/23, 7/24, 8/18 (9月14日)	対照B剤 1,500倍	B	C	C	-

かんきつ ミカンハダニ

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2015	ミカンハダニ 〈防除効率(♀A)〉	静岡県	露地 (ポット)	中	2,000倍 2ℓ/4樹	散布	1	9/15 〈処理9, 20, 29日後〉	対照G剤 2,000倍	C	C	C	-
2015	ミカンハダニ 〈防除効率〉	山口柑	屋根掛け (ポット)	中	2,000倍 約0.5ℓ/樹	散布	1	5/11 〈散布21, 31, 41日後〉	対照G剤 2,000倍	B	A	A	-
2015	ミカンハダニ 〈防除効率(♀A)〉	愛媛果	露地 (ポット)	中	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	7/21 〈散布10, 20, 31日後〉	対照E剤 4,000倍	B	A	A	-
2015	ミカンハダニ 〈防除効率(A)〉	佐賀果	露地	中	2,000倍 4ℓ/樹	散布	1	9/18 〈処理9, 20, 31日後〉	対照G剤 2,000倍	B	B	B	-
2016	ミカンハダニ 〈防除効率〉	静岡県	露地 (ポット)	中	2,000倍 2ℓ/4樹	散布	1	9/15(新葉硬化後) 〈処理11, 20, 29日後〉	対照J剤 2,000倍	B	B	B	-
2016	ミカンハダニ 〈防除効率〉	長崎果	露地	中	2,000倍 4ℓ/樹	散布	1	8/9 〈散布11, 20, 29日後〉	対照G剤 2,000倍	B	A	B	-
2016	ミカンハダニ 〈防除効率〉	大分果国	露地	少	2,000倍 10ℓ/樹	散布	1	9/9 〈処理12, 24, 32日後〉	対照E剤 5,000倍	B	B	B	-

かんきつ アブラムシ類

検討年度	害虫名(種名) 〈調査項目〉	実施機関	圃場	発生状況	濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期) 〈判定した調査時期〉	対照薬剤名 (処理条件)	対 対照	対 無処理	判定	薬害
2017	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	愛知蒲郡	露地	多	2,000倍 7ℓ/樹	散布	1	8/4 (夏芽伸長期) 〈処理3, 6, 14日後〉	対照M剤 2,000倍	A	A	A	-
2017	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	三重紀南	露地	少	2,000倍 1.6ℓ/樹	散布	1	8/21 〈処理3, 7, 14日後〉	対照N剤 2,000倍	B	A	A	-
2017	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	愛媛果	露地	中→少 (放虫)	2,000倍 0.5ℓ/樹	散布	1	7/27 〈処理3, 7日後〉	対照O剤 4,000倍	B	A	A	-
2018	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	山口柑	露地	多	2,000倍 3ℓ/樹	散布	1	7/25 〈散布3, 7, 14, 21日後〉	対照Q剤 2,000倍	B	A	A	-
2018	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	愛媛果	露地 (ポット)	中 (放虫)	2,000倍 0.3ℓ/樹	散布	1	5/21 〈処理3, 7, 14, 21日後〉	対照R剤 10,000倍	B	A	A	-
2019	アブラムシ類(ユキヤナギアブラムシ) 〈補正密度(A, L)〉	神奈川 根府川	露地	中	2,000倍 1ℓ/樹	散布	1	8/6 〈処理7, 14日後〉	対照M剤 2,000倍	B	A	B	-



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078

9:00~12:00, 13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。